

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102518
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ荒田
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目39番1号 (電話) 099-812-3866
自己評価作成日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- H13年10月、ホーム開設。市の中心部に位置しており、国道225線近く バス、電車等の交通機関に利便性が高いのでご家族の方にも訪問しやすい環境にあり、又、閑静な住宅街である為に騒音もなく穏やかな時の中で 入居者の方々は過ごされている。
- 有料老人ホーム、居宅支援事業所が併設されている為、防災訓練、折にふれ、運営推進会議等で交流する機会もあり、相互に情報交換できている。地域の子供達にぎやかに集う「古田ヶ浜公園」への散歩などで 気分転換を図りながら、地域での催し等にも参加、交流しつつ、地域に開かれたホームづくりを目指しており、H29年6月に、地域住民、近隣の他福祉施設等との防災ネットワークを立ち上げ「共助」での相互の協力及び連携を強化できるように目指している。又、コロナ禍の中、地域での一斉消毒、「児童の見守り隊」活動等にも参加できるように努めている。
- 入居者の方々の歩行力維持の為、下肢訓練を朝夕に実施、リハビリ訓練に取り組んでおり、協力医療機関の田上記念病院を始めとして緊急時には近医も多数あり、日頃も健康管理から医療連携を重視し、安心してホームで過ごせるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は有料老人ホームや居宅支援事業所が併設されている。
- ・町内会や校区コミュニティ協議会に加入しており、地域住民や近隣の他福祉施設との防災ネットワークにも加入している。月1回、朝の登校時の見守り隊として参加したり、ホーム周辺のパトロールで高齢者への声掛けをする等、地域の一員として活動交流している。
- ・それぞれのかかりつけ医や協力医療機関があり、緊急事には迅速に対応できるよう、常勤看護師がおり24時間連携が来ている。疾病の予防や早期発見に努め利用者が安心して生活できるように支援している。
- ・安全対策、認知症ケア等、決められたテーマを担当者が月1回の勉強会で発表し、全員で学び、資質向上に努めている。
- ・管理者は職員の意見や提案を聞き、働きやすい職場環境作りをしている。職員は研修に励みケアの質の向上を図っている。
- ・食材は自家菜園の野菜を取り入れたり、地域のスーパーマーケットや商店で購入し地産地消を心掛けている。行事食を数多く取り入れ、変化を持たせ食事が楽しいものになっているようにしている。

はるかぜ荒田1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼後に理念の唱和を行い意識づけし実践できるよう努めている。年度末には理念についての振り返りを行っている。	事業所独自の理念を、事務所・玄関・各ユニットのデイルームに掲示し、朝礼後唱和している。年度末に気付き等を振り返り、次年度に繋がるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公園などの清掃活動、総会への出席、見守り隊への参加、防災連絡ネットワークの一員として活動している。地域との繋がりを大切に相互に交流できるよう努めている。	町内会や校区コミュニティ協議会に加入している。月1回、見守り隊へ参加し、子どもの見守りと登校時の挨拶やホーム周辺のパトロールを行い、高齢者へ声掛けする等、防災連絡ネットワークの一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	例年、すこやか祭りや十五夜祭りなど地域行事に積極的に参加していた。近年、コロナ禍にて参加はできていないが、すこやか祭りでは作品作りとして参加し出品を続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、地域の方の参加は控えて頂いているが開催後の議事録は町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員へお配りし、意見や情報をもらいサービス向上に活かしている。議事録の他、避難訓練時の画像も持参している。	運営推進会議は2ヶ月に1回職員のみで開催し、現状報告や課題報告等を行っている。報告や情報を文書にして関係者に届け、意見を頂きサービス向上に活かしている。研修等を行い、意見交換や学ぶ場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センターや市役所を訪問した際はホーム便り等を持参し、活動状況を伝えるようにしている。市職員による相談派遣員を毎年依頼し意見やアドバイスなどをもらうなど協力関係を築けるよう努めている。</p>	<p>書類や運営推進会議録・ホーム便りを持参し活動状況を報告したり、電話やFAXでも相談や入居者の紹介を依頼している。市主催のオンライン研修に参加したり、市担当者や地域包括支援センター職員と密に連絡を取り合っ、協力関係が築けるよう努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月の職場会議の中で身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を開催し、身体拘束に関する弊害など全職員が共通認識を持ってケアに取り組めるよう努めている。スピーチロックや権利擁護についてのオンライン研修に参加している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に、マニュアルに基づいて月1回勉強会を実施している。スピーチロックや権利擁護についても研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はせず、併設施設の協力も得て利用者の自由な暮らしを支えている。外出希望者の場合は家族に電話する等、気分転換を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職場会議の中で毎月、高齢者虐待防止法について勉強会を開催し、ケアの振り返りを行い、全スタッフで情報の共有に努めて環境・意識づくりを目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている方もおり、内部研修では権利擁護の項目を設けており全職員が学ぶ機会づくりを確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の際には、契約の締結を実施しており、ゆっくりと分かりやすい表現を意識して説明を行い理解を得られるように心がけている。又疑問点の有無にも注意を行い、文書を用いて十分に時間をとり説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の想いは、日頃の対話や表情、仕草等から理解に努め、ご意見・ご要望があった場合には速やかに記録に残し、職員会議やカンファレンスで話し合いを持ち、運営の改善に反映させる形をとっている。	利用者からは日々の関わりでの対話や表情・仕草等から意見や要望を聞いている。家族からは面会時やLINE・メール・電話でのやり取りの中で聞いている。行事予定表や写真入りのホーム便り等を毎月郵送し、意見を出せる機会を作っている。本人や家族の要望により、窓越しやパーティションでの面会の機会を多くしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各スタッフには、本人の意見や要望を聞き取り、ケアに関する助言、指導や研修の実施、シフト調整をおこない職場環境を整備し働きやすいよう取り組んでいる。	管理者は日頃からコミュニケーションを図り、相談にも対応する等、話しやすい環境を作っている。提案や要望は会議の場で話し合い、職員の意見や要望が届き易いようにしている。意見を反映し、食事作りやケアサポートを担う体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個別に職員の資格取得に向けた支援や各スタッフの意識向上が図れるように、それぞれに役割を担ってもらいながら、やりがいのある就業環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内外での研修の案内、紹介を行い、参加後は研修内容の報告を行い全職員で共有できるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所から助勢という形で訪問があり交流や意見交換を行なっている。管理者は同じ立場同士で集まる管理者会議へ参加、交流や意見交換を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず面談しご本人、ご家族から意向、困り事や要望を伺い、意向にできるだけ沿う形で環境整備を行ない、開始断簡から安心して暮らすことができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族と面談を通し、不安なことや要望を伺い、希望に添えるよう丁寧に説明し、信頼関係の構築が図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情や要望を基にスタッフで話し合い、必要な支援などについて意見交換を速やかに行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブル拭き、新聞畳みなど出来ることはして頂き、感謝の言葉を述べるよう心掛けています。また感謝の言葉を述べる場面づくりが増やせるよう意識しケアを行い相互関係構築が図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「暮らしの日記」を作成し日々の様子を記録し、お伝えしている。情景が詳しくわかるよう工夫し記入している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しであるが面会やお電話での交流が継続できるよう支援している。ホームを訪れやすい環境づくりを意識して取り組んでいる。	窓越し面会時は顔が見れるようにサポートしたり、電話や手紙で交流が継続できるよう支援している。医療機関受診の際に花見や自宅周辺へドライブに行ったり、馴染みの理美容室で定期的に整容をしたり、家族と職員が同伴し、墓参り支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者同士の関係性が築けるよう仲介を適宜行なうことで、個性を持ちながら利用者同士の関わりを持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も見舞い・面会へ赴き、家族からも気軽に困り事や相談が受けられるような関係性が継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話を大切にし言葉や表情から思いや意向を察知している。意思の疎通が困難な場合はご家族から情報を得るなどし本人の思いに寄り添えるよう努めている。本人の思いは家族とも共有している。	日々の関わりの中での会話や表情・仕草から思いや意向を推し測ったり、家族の面会時や電話等を通して思いを把握している。意志疎通が困難な場合は職員間で話し合い「暮らしの日誌」や複数の記録簿を共有し、小さい変化も家族に相談、報告しケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や馴染みの暮らし方を本人やご家族から教えてもらいケアに反映している。前担当ケアマネジャーや病院連携室など関わりがあった機関から聴き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとのコミュニケーションを通して、心身状態の変化や生活リズムを把握し、総合的に見つけ、できる力、分かる力を暮らしの中で発見できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員より気づきを記入してもらい、アセスメントやモニタリングを実施し情報を共有している。日々のかかわりの中で言葉や表情、態度からくみ取り暮らし方の希望に繋がられるようにしている。計画の見直しは柔軟におこなえるよう努めている。	本人や家族の意向、主治医や看護師の意見、各職員の気づき等からアセスメントし、介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、6ヶ月で見直している。日頃の関わりの中や電話等で思いや要望を聞き、変化を把握したらその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を行なう際はケアプランに基づき、日々の暮らしの様子や本人の発した言葉、会話等も記入するようにしている。個々の記録は職員間で共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化する本人・家族のニーズに対して、多職種やインフォーマルサービスを用いるなど柔軟にまた、多機能的な取り組みができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員にも参加していただき、意見交換を行っている。また介護保険以外の地域資源サービスも把握するよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取得しており、看護師による日常的な健康管理や医療機関の連携調整が整っている。協力医療機関以外の馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関での受診が継続できるよう支援している。	入居契約時に希望のかかりつけ医を確認し、かかりつけ医を継続できるよう、家族の協力のもと支援している。協力医療機関への定期受診は職員同伴で支援し、看護師による日常的な健康管理も行っている。24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝のバイタルチェック、全身状態の観察を行い健康状態を把握している。看護職員と相談しながら日常の健康管理や医療相談を実施している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際、安心して治療ができる環境が整うように、介護・看護サマリーを提出し医療機関関係者と情報交換を実施し、不安を感じることなく早期の退院が実現できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護に関する指針について整備し、入居時に時間をかけ丁寧に説明し同意を得た上で入居して頂いている。家族会などで随時、説明を行い同意、理解を得る取り組みを行っている。看取りについての研修参加への機会作りを行っている。</p>	<p>入所時に看取りの指針を説明し方針の共有を図っている。重度化や終末期には主治医から病状説明を行い、本人・家族の意向を優先し、主治医・看護師と連携し全職員で方針を話し合い、安心して最後が迎えられる体制ができています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員ミーティングの際に勉強会を行ない、初期対応の訓練を行っている。救急隊員同席のもと心肺蘇生法について講習を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回、第2金曜日「避難の日」を実施し利用者、スタッフ共にシュミレーションをしている。同敷地内の有料老人ホームと共に年2回、昼間・夜間想定で地震、消防訓練を実施している。その様子は動画や画像で残している。桜島噴火も意識し、対応を想定した訓練や備蓄も多めにしている。</p>	<p>年2回消防署立会のもと、同建物内の関連施設と合同で防災訓練を実施している。1回は昼間想定で地震発生、火災、水害避難訓練を実施し、1回は夜間想定で消防訓練を実施している。毎月「避難の日」を設け昼夜を想定し非常災害時の対策について研修を実施し、職員の理解と経験を積んでいる。備蓄は水・レトルト食品・乾パン・麺類・缶詰等の食料品とヘルメットは人数分、ライフジャケットを1着準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の尊厳や誇りを傷つけることがないように言動には十分に注意している。職員間で指摘しあえる環境づくりに努めている。</p>	<p>プライバシーの確保や個人情報保護法・接遇マナー等の研修や勉強会を実施し、その人にあったケアを心掛けている。排泄や入浴時は安全性を確保し、羞恥心に配慮したケアを行っている。利用者への声掛けは尊敬の気持ちと思いやりの心を持ち、名前は希望に応じて苗字や名前にさん付けをして呼んでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が思いや希望を表しやすい環境作りに努め、本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活歴やその日の体調やその時の気持ちに寄り添い、個別性を持って日々の暮らしができるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>外出時だけでなく普段から身だしなみやおしゃれに興味を持って頂くよう意識している。理美容の訪問サービスではカラーやカットなど希望に合わせたスタイルになるよう好みの把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターでできたキュウリやナス、小ネギなど野菜と一緒に収穫し献立に取り入れ、食卓を彩る工夫をしている。季節感を少しでも味わっていただくよう、旬の食材を利用し、彩りを意識し、視覚からも食事が楽しめるよう工夫している。	献立は利用者のリクエストや季節のものを取り入れ、職員が献立を作成し専従職員が調理している。食形態に配慮しながら行事食を多く取り入れ、自家菜園で収穫した食材を使い、五感でも食事を楽しめるよう工夫している。状態に応じてテーブル拭き等片付けを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態の工夫や本人の好みの味付けや飲み物を提供し栄養バランスの維持や水分摂取量の確保ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔保清について理解したうえで、口腔ケアを実施している。食事前は口腔体操や歌を唄い発声を意識して取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう努めている。自尊心に配慮した言葉かけやさりげない案内などプライバシーにも留意している。	排泄チェック表で排泄のリズムを把握し、動作や表情等、小さな情報も共有している。自尊心に配慮した声掛けでトイレ誘導し、日中は2人介助で排泄支援を行っている。夜間は個人に合わせた排泄スタイルでトイレ誘導のほか、リハビリパンツやパットでの自立排泄に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳など腸内環境を整える乳製品の提供や体操や立位訓練など運動を実施し、自然排便がみられるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回を基本に入浴を実施している。一人ひとりの希望や要望に合わせて曜日や時間帯を変更したりと柔軟に対応している。浴槽に浸かれない方には、足湯やかけ湯を十分行き気持ちよくリフレッシュできるよう支援している。	週3回午前中を基本に入居者の入浴順番や時間・湯温等、体調や意向に合わせて入浴支援を行っている。シャワー浴と足浴支援もある。拒否がある場合は利用者のタイミングを見て声掛けをする等、無理強いせず柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムを大切に、日中は適度な運動や計算問題や塗り絵など思考力を使うレク活動を取り入れ、日中は活動的に過ごしていただけるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった際は必ず申し送りを行い受診ノートに詳しく記載し職員が内容を把握できるようにしている。内服文献は個人ごとに綴り、用法や副作用について、いつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、個々の楽しみや好みを知り、家事が得意な方には洗濯物畳やテーブル拭きをお願いし役割を持っていただき、歌を唄うことが楽しみな方には披露する機会作りを行い、その方にあった支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	例年、「花見」「ソーメン流し」「コスモス見学」「ミカン狩り」の外出支援行っている。感染症予防のため、外出は控えているが、天候や体調を見ながら散歩やドライブなど外出支援を継続し気分転換が図れるよう意識して取り組んでいる。	コロナ禍と入居者の重度化により、体調に配慮して、天気の良い日は公園や近隣への散歩、ドライブなど戸外に出かける支援を行っている。今後は家族や地域の人々と、コロナ禍の中でも利用者が望む外出支援が出来るように模索している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じ、ご家族と相談をして決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族や大切な人に、いつでも電話ができるよう、ハガキのやりとりができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花や季節感を感じて頂けるような飾り付けを行っている。月1回、フラワーアレンジメントを行っており、季節の花を、ご本人が生けられ各居室に飾っている。	共用スペースは日光が差し込み明るく、日中窓を開けて換気している。加湿器付きの空気清浄機を設置しており、温度や湿度をエアコンで調整している。居心地よく過ごせるよう電球色も工夫している。季節の花や壁絵作品が飾られ、入居者が会話や手作業をしながら快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるようにテーブル席の配置など共有空間で落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活習慣や住環境を参考に使い慣れた馴染みの家具や思い出の品、ご家族との写真を飾り、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	居室は電動ベッド・エアコン・クローゼット・整理タンス・戸棚が設置され、衣替え等がやり易いように取り出しに工夫が施されている。寝具はリースでシーツ交換も定期的にされている。位牌・写真・テレビ等の好みのものや季節の花が飾られ、居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失見当の方も不安のないようトイレや浴室など大きく表札を貼り、分かりやすいよう配慮している。整理整頓に心がけ、移動の妨げにならないよう家具の配置にも気を付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない